

市民団体ヒアリング結果（報告）

1. ヒアリング目的

市内の環境関連市民団体における活動内容及び活動における課題等を把握し、後期計画の重点取組の検討に際して参考とすること。

2. ヒアリング実施期間

平成 30 年 9 月 27 日（木） ～ 平成 30 年 9 月 28 日（金）

3. ヒアリング実施方法

エコプラザ西東京の登録団体に対して行った事前アンケートにてヒアリング調査への対応の可否を確認し、対応可能と回答した団体について、エコプラザ西東京で団体個別の聞き取り調査を実施した。

4. ヒアリング対象団体

ヒアリング対象団体は下表に示した 8 団体である。

No.	団体名	分野	頁
1	ごみ資源化資源市民会議	資源有効利用・ごみ減量	2
2	きぼう工房リユース推進会	資源有効利用・ごみ減量	3
3	西東京地域猫の会	生活環境、資源有効利用・ごみ削減	4
4	翠正会	資源循環、生活環境	5
5	西東京の自然を見つめる会	自然環境	6
6	はちどりの会	自然環境	7
7	西東京花の会	景観、資源有効利用・ごみ減量	8
8	レジャ教育を広める会@キオッチョ@	教育、資源有効利用・ごみ減量	9

5. ヒアリング結果概要

【主な課題について】

- ・ 会員の高齢化、若い世代の新規会員の入会者の不足
- ・ 会員数の不足に伴う活動内容の制限
- ・ 活動内容についての情報発信（ターゲットへの効果的な情報発信方法が確立できていない）

【主な提案について】

- ・ 活動内容についての情報発信の支援（広報誌、SNS等）
- ・ 市とタイアップして取り組んでいることがアピールできる仕組み（団体だけの活動では市民の協力を得ることが難しいため）
- ・ 団体と一般市民、学校等との連携の支援（コネクションづくりの支援、イベント情報の発信等、市民がイベントに参加しやすい環境づくり等）
- ・ 市の各種事務手続きの簡素化（補助や施設利用手続き等）

6. ヒアリング結果詳細

団体名 【1 ごみ資源化資源市民会議】

実施日時 平成 30 年 9 月 27 日（木） 9：00～10：10

●活動概要について

➤ 茶碗等の陶磁器の収集・再資源化

- りさいくる市で、市民から茶碗等（使用しないもの、割れていても可）の収集を行っており、集まった茶碗等は岐阜県の陶磁器のリサイクル施設へ送り、無料でリサイクルしてもらっている。茶碗 1 個について、提供者に 30 円程度の寄付金を出してもらっており、500 kg 程度集まったら 1 万円程寄付が集まるので、岐阜までの配送費に充てている。
- 市が収集した場合、ガラス等の不適正なものが混入し、除去に手間がかかるが、団体が市民に呼び掛けて協力してもらうことでそのようなことがない。
- その他として、ペットボトルキャップの収集やレジ袋の辞退率調査を行っている。

●課題

- 陶磁器の回収は従来エコプラザの屋外テントの中で行っていたが、テントが無くなったため今後実施する場所がなく、対応を検討する必要がある。
- 市民の生活スタイルが変わって来ているためか、共働きなどで忙しいためか、活動に参加しようという若い人がいない。会の活動主体は 60 代などの高齢の方が多い。

●計画への提案

- 市民団体だけでは、市民等からの信頼を得て取組を進めることができない。このため、市から認めてもらい、市と連携しているという関係のもと、市民に対する普及に取り組まなければならない。
- マイクロプラスチックの問題で最近プラスチックストローの使用見直しが話題になっているが、日本の現状を踏まえるとレジ袋の廃止の方が必要である。東京都が 2020 年までにレジ袋の無償配布「ゼロ」を実施するとしているが、西東京市はその前に都内で初めて有料化に取り組んではどうか。

団体名 【2 きぼう工房リユース推進会】

実施日時 平成 30 年 9 月 27 日（木） 10：10～11：05

●活動概要について

➤ リユースを通じた福祉施設における就労機会の創出

- さまざまなモノのリユースを通じて、福祉施設の就労機会創出に努めている。
- 衣類や食品、ぬいぐるみ、皿、おかしのおまけのようなおもちゃなど様々なものを仕分けし、バイヤーに販売している。バイヤーはそれらを外国に売っている。
- 地域等で行われているバザーでの売れ残りは引き取り手が無いため、ごみとして処分されることが多い。このため、残りすべてを買い取り（キロ当たり数円）、仕分けして再販することもしている。

➤ 不使用 PC のデータ消去・再販

- 不要であり壊れていない PC について、市民の方々にりさいくる市等のイベントへ持参してもらい無料で引き取り、データ消去してリサイクルショップに販売している。
- PC は個人データの消去が不安で捨てられない人が多くいるため、その場でデータ消去を行うことで安心して提供してもらえるようにしている。
- PC を分解することは福祉施設でも可能だが、個人情報の消去については特殊性が高いため誰でもできるわけではない。

●課題

- 現在は、イベント開催告知を市報かビラ配りで行っているのみであり、広報手段が不十分である。SNS を活用した情報発信の仕方が不慣れなので今後検討する必要がある。
- 不用品を持参する来場者は会場周辺の人が多く、広く市域から集めるためにはイベントの開催拠点を増やす必要がある。

●計画への提案

- リユースイベントの開催拠点を市内で複数箇所設けてはどうか。
- 市民へのイベント告知方法について、SNS を活用してできると良い。
- 施設の利用登録について、施設個別の登録が必要など、わかりにくいので登録しやすくなると良い。

以上

団体名 【3 西東京地域猫の会】

実施日時 平成 30 年 9 月 27 日 (木) 11:10~12:00

●活動概要について

➤ 野良猫の不妊手術 (TNR) の実施、リリース

- 野良猫の捕獲、去勢及び不妊手術の実施後、地域へのリリースを行っている。また、多頭飼育崩壊 (ペットの動物を多数飼育した飼い主が、無秩序な飼い方による異常繁殖の末、飼育不可能となること) を未然に防ぐための対策も行っている。
- 子猫については、譲渡会にて希望者へ譲っている。

➤ 不要ペット用品の再利用

- りさいくる市にて、ペットフードやペット等のベッドなど不用品をいただき、再利用しており、廃棄物の削減につながっている。

●課題

- 会員が 30 名いるが、サポート会員 (猫の預かり・一時飼育を受けるメンバー) が大半であり、野良猫の捕獲を実際にできる人は 3 名しかいない。捕獲するには知識と経験が必要であり、誰でも出来る訳ではないので、メンバーを増やし、人を育てなければならない。
- 活動費が負担になっている。せめて、助成金の申請手続きを簡素化してもらえないか。
- 多頭飼育崩壊を起こすのは高齢者に多い。現在 SNS 等で情報発信を行い、問い合わせ等の効果が出てきているが、ネット情報に疎い高齢者への情報発信が十分にできておらず、高齢者に TNR の必要性を理解してもらえていない。シルバー人材センターを使ったビラ配りなどで情報発信も検討する必要がある。

●計画への提案

- 活動を普及させるためには、「行政と一緒に取り組んでいる団体である」ということをわかってもらうことが重要である。

以上

団体名 【4 翠正会】

実施日時 平成 30 年 9 月 28 日（金） 11：00～11：40

●活動概要について

➤ 楮（コウゾ）の枝の再利用

- 和紙の原料となる楮について、和紙の製造に必要な樹皮を剥いだ後の枝を軸木として再利用している。
- 和紙工場（秩父）へ和紙の製造工程を見学に行った際、樹皮を剥いだ後の楮の枝が焼却処分されているのを見て、大気への影響等を懸念し、再利用することを思いついた。自分たちで持ち帰れる量について、会の作品を展示する際の掛け軸の軸木として活用している。
- 枝は、以前であれば燃料として利用されていたが、時代の変化によって燃料利用されなくなり、焼却処分になっている。
- 再利用できる量はわずかだが、少しでも焼却せず、再利用することに環境保全に貢献できれば良いと考えている。
- 以前は、展示会の際、和紙の製造工程等について解説を付け、楮の有効利用等についても情報発信していたが、近年は特にそのようなことはやっていない。

●課題

- 再利用できる枝の量は少量なので、廃棄物の削減としての効果は少ない。

●計画への提案

- 取組を展示会等で PR することで、資源の有効利用について考えてもらうきっかけづくりとしての貢献ができる。

以上

団体名 【5 西東京の自然を見つめる会】

実施日時 平成 30 年 9 月 28 日（金） 13：00～13：55

●活動概要について

➤ 緑に関する取組

- 活動開始は 1991 年であり、当時田無市で行われていた環境講座の終了に伴って有志が集まって田無の自然を見つめる会を発足させた。
- 近年は緑についての活動が中心であり、緑被率調査（2006 年）、市内の公園の緑についての調査等を実施した。近年は向台植物園をホームとして管理を行うとともに、公民館企画事業の親子自然観察会を通じて市民の緑の保全に対する意識啓発を行っている。
- 親子自然観察会は、以前は東大農場で行っていたが、農場の改修のため、ここ 3 年はいこいの森公園で行っている。生き物の専門家については西東京市の公園の指定管理者である birth の生き物の専門家に協力してもらっている。団体によって得手不得手があるので、団体同士の横のつながりで相互支援している。

●課題

- 会員は 60 名程度であり、70 歳前後の自然が好きな人が集まっているが、年齢層が高く、人数も限られている。また、新たな若い世代の会員が入る機会がない。
- このため、主体的に今以上のイベント等を行うのは人足的に困難である。ただし、他の主体が開催するイベントを手伝うことは可能である。

●計画への提案

- 学校の授業で自然観察会等を行うことは可能である。ただし、人足的に単独実施が困難なので、他の団体や市役所等が主体となり、それを支援する形になる。
- 外来種駆除等は、公園の限られた場所でなければ会単独で行うのは無理であり、市内を広範囲に行うのであれば、市民の方々に参加してもらわなければ困難である。

以上

団体名 【6 はちどりの会】

実施日時 平成 30 年 9 月 28 日（金） 14：00～14：50

●活動概要について

➤ 専門家を招いた勉強会の開催

- 水道、生物多様性、大気等のテーマに沿って、専門家を招いて勉強会を開催している。

➤ 石神井川の清掃活動

- 石神井川の清掃活動を行っており、プラごみが大量に発生しているほか、自転車などの大型ごみも見られる。また、河道内にオオブタクサやオオカワチシャが繁茂しており、オオブタクサについては弦が太くて刈るのも困難な状態である。

➤ 外来種駆除

- 西東京いこいの森公園などで繁茂しているワルナスビの駆除を行っているが、当団体だけでは駆除が追い付かず、他の団体などの協力を得ながら行っている。近年は公園内の量は減ってきたが、市内で見るとかなり多く生息しており、これらには団体だけで対応できない。

➤ その他

- 最近ではマイクロプラスチックへの関心が高いが、具体的にどのような取組を行えばよいかはまだわからず、主に情報収集を行っている段階である。

●課題

- 会員が高齢化しており、実働する人が不足している。団体としては情報を提供できるので、市民が実働に参加してくれるような体制が必要。

●計画への提案

- 清掃活動を一人で行っていると、親子会やボーイスカウトなどの関係者から、夏休みを利用して清掃活動を体験したいと声を掛けられることがあった。活動に対して関心を持っている人がいると思われるが、どこに言えば良いかがわからない人もいないか。清掃活用や外来種駆除活動を行う際に、活動を PR するベストを着たり、のぼりを立てたりすることで、市民に情報を伝えることも取組を広げる有効な手段ではないか。
- 石神井川に繁茂するオオブタクサなどの植物は水の流れを妨げるため、今後温暖化による集中豪雨等の発生する恐れが益々高まる中、水害対策として駆除に取り組む必要がある。（温暖化適応策のひとつと捉えることができる）
- 生物多様性の話をすると、生態系の話など自分たちの生活とかけ離れた話に感じてしまうことが往々にしてある。しかし、マイクロプラスチックは自分たちが使ったプラごみから生じており、これが生物の体に蓄積し、生態系に影響を及ぼしていることを絡めることで、生物多様性の問題も身近に感じるのではないか。

以上

団体名 【7 NPO 法人西東京花の会】

実施日時 平成 30 年 9 月 28 日（金） 15：00～16：00

●活動概要について

➤ 花の栽培、花壇の修景

- ハウスでの花の栽培、市内 49 箇所の公園等の花壇の管理を行っている。
- 花壇に花を供給するために苗を買っては経済的な負担が大きいため、農家の空き地を借りてハウスを建て、種から年間 1 万株の花を育てている。
- 事業収益としては、買ってきた花で作った寄せ植えを販売した際の収益のみ。栽培した花は、花壇に植えるために市から提供を受けた種子であるため販売できない。
- 栽培の技術指導を農業高校の先生から受けており、会の活動内容の視察に神奈川県など都外からも訪れる。

➤ オープンガーデン

- 自宅の庭を見学コースとして登録（28 件）するオープンガーデン事業を行っており、ホームページを通じて情報発信している。オープンガーデンには、毎年市外から多くの見学者が訪れる。

●課題

- 136 名の会員がいるが、高齢者が多く、また男性会員が少ないため力仕事あまりできない。公民館での寄せ植えのイベントなどに若い方の参加があるが、会員になるまでの人はおらず、若い会員が増えない。（花の出荷等の作業は、公園課の協力を得て行っている。）
- ハウスでの栽培は農家の土地を借りて行っているため、地主が代替りし、土地を手放すことになったら新たなハウス用地を探す必要がある。
- 公園課から落ち葉をもらって、腐葉土を作っており、もっと腐葉土が欲しいが作る手間が無い。また、以前コンポスターを市から提供され、たい肥づくりも行ったが、コンポスターの中に子供が入って遊ぶことがあり、危険なので撤去した。

●計画への提案

- 栽培した花を中学校に提供したが、最近は園芸部もないようである。子供や高校生・大学生（保谷高校、武蔵野大学等）といった若い人が栽培にかかわることができる仕組みを持つことはできないか。
- 江戸時代、米が採れない武蔵野台地では草木染の材料として売って換金するため、ムラサキの栽培が盛んだった。市内の多くの学校の校歌や校章にムラサキの花が取り入れられている。しかし現在市内ではほとんど栽培されていない。（地域の花、シンボルとして栽培してはどうか）
- 以前、老人ホームの土地でバラ園を作り、入居者が掃き掃除などをやってくれていた。（花を通じた健康という視点で盛り込んではどうか）

以上

団体名 【 8 レッジョ教育を広める会@キオッチョラ@】

実施日時 平成 30 年 9 月 28 日（金） 16：00～16：45

●活動概要について

➤ レッジョ教育の普及

- 国内において、全国の PTA や保育園等を対象としてレッジョ教育の普及に努めており、西東京市内においては、多摩六都科学館で講座を開催している。
- レッジョ教育では、企業廃材を用いたアート作品を作成することを通じて子供たちの五感に刺激を与える教育に取り組んでいる。

●課題

- 会がイベントを実施する際には、材料代と講師派遣費用が必要であり、作成した作品は持ち帰られる訳ではない。このため、参加者によっては金額が高いと感じる人もいる。

●計画への提案

- 従来一般的な環境教育（温暖化問題、廃棄物問題等）を子供たちに教えるというのではなく、レッジョ教育では廃棄物を用いたアート作品を作ることを通じて、ごみや環境問題について考えが広がることが期待される。西東京市の企業から出るごみ（シチズンから出たプラスチックの型抜き、畳の縁、皮等）を使って作品を作ることで、ごみから西東京市の姿を考えさせることができるのではないか。

以上